

「ギリシャの債務危機と欧州民主主義」

西南学院大学 尾上 修悟

2016年3月26日、於関西学院大学梅田キャンパス

I. 問題の所在

1. ギリシャをめぐる民主主義問題
2. 分析のフレームワーク

II. ギリシャにおける急進左派政権の成立

1. シリザの勝利
2. 急進左派政権成立の社会・経済的背景
3. ツィプラス政権の基本政策
4. ユーロ圏の反応

III. ギリシャの EU との金融支援交渉

1. 救済プログラムの延長
 - 1.1. ヴァルウファキスの戦略
 - 1.2. シリザの基本的姿勢
 - 1.3. トロイカの反応
 - 1.4. 救済延長の合意
2. 金融支援交渉の決裂
 - 2.1. ギリシャのデフォルト危機
 - 2.2. トロイカの姿勢
 - 2.3. ツィプラスとシリザの姿勢
 - 2.4. ギリシャの社会的危機
 - 2.5. Grexit 問題
 - 2.6. 支援交渉決裂の意味

IV. ギリシャのレファレンダムと第3次金融支援

1. レファレンダムの決定とその結果
 - 1.1. レファレンダムの決定
 - 1.2. レファレンダムをめぐる諸問題
 - 1.3. レファレンダムのキャンペーンとその結果

2. ギリシャの降伏と第3次金融支援

2.1. レファレンダム後のギリシャと欧州をめぐる議論

2.2. 第3次金融支援の決定

V. 課題と展望

1. 課題

1.1. 社会問題

1.2. ユーロ問題

1.3. ドイツ問題

1.4. 支配体制問題

1.5. 制度設計問題—「ユンケル・レポート」をめぐって

2. 展望

2.1. 「ノー」ジェネレーション出現の意味

2.2. 「マクロン・ガブリエル共同声明」の意義

2.3. 「もう一つの通貨」の道

2.4. 「もう一つの欧州」の道